苗植え用穴掘り

畑の助っ人 Field Helper

モグ太郎 MOG-TARO が

日本農業新聞で紹介されました。

2010年5月3日発行日本農業新聞の「ユーザー通信」より抜粋

「モグ太郎」を3年前に導入した福井県大野市で里芋を作る野下さん。

- 家にもともとあった刈払い機に装着でき、便利で経済的。
- 従来の穴開け機器に比べ作業時間が半減。
- 今まで重労働だった穴開けが、力を使わず疲労が大幅に軽減された。

日本農業新聞

（第3種郵便物認可）

苗植え用穴掘り刃「モグ太郎」

共栄製作所

ユーザー通信

福井発

刈り払い機利用 作業早く疲れず 穴の目印欲しい

野下 太頼 さん（サトイモ栽培）

共栄製作所（岐阜県高山市）が販売する苗植え用穴掘り刃「モグ太郎」は、刈り払い機の刈り刃の位置に取り付け、刃を回転させ、畑の土に押し付けて作物の植え穴を開ける。苗用とサトイモ用があり、サトイモ用では直径約9㌢、深さは約15㌢の穴が掘れる。従来の穴開け用器具の作業と比べ、時間が大幅に短縮できると好評だ。サトイモの植え付けに使う農家に使い勝手を聞いた。（石川大輔）

福井県大野市でサトイモを作る野下太頼さん（65）は、4月中・下旬に行うサトイモの植え付けで、モグ太郎を使って植え穴を開けている。中腰で穴を開ける。中腰が数日続き、畑の乾燥したタイミングを見計らって行う。土がぬかるんでいたり、掘って埋めと、作業が難しいから。稲の育苗と重なる忙しい時期でもあり、「作業のスピードアップはありがたい」と話す。

モグ太郎をサトイモで使うことを提案した同センターの伊藤昭治さんは「既に70個ほど売れた。購入した人は、満足しているようだ」と評判について話す。

◇

ただ、伊藤さんは、穴のないマルチ上で使う場合、目安となる目印がないため穴の間隔が乱れやすいことを課題に挙げる。「距離の目安となるゲージを取り付け、次に開ける位置に目印が付くようにしてはどうか」と提案する。野下さんは、土はね防止の円盤について「大きくて穴開け時に刃が見えにくい。もう少し小さくできないか」と要望する。

ゲージ試作へ 返信

ゲージについては、他地域でも同じ意見がありました。畝に対面して使うか、斜めから使うかといった作業の仕方や、作物の種類によって変わってくると思います。間隔や角度を変えられるゲージを、来春までに試作する予定です。

土の飛散防止円盤は、作業者の安全のために必要と考えています。径を小さくして試験してみます。危険がないようであれば、実用化の価値はあると思います。

（共栄製作所・折敷地淳営業部兼システム販売部長の話）

▶苗植え用穴掘り機「モグ太郎」
市販の刈り払い機に付いている刃を外し、その位置に取り付ける。径8㌢の左ねじ式で、同社の段付きボルト（別売り）を使って径7㌢の機械にも装着できる。7割のメーカーの製品に装着でき、200個の穴を8分で開けられるという。定価は苗用が1万5750円、サトイモ仕様が2万475円。取り替え刃は苗用が5040円、サトイモ仕様が6815円。写真はオプションのガード金具付き。問い合わせは同社、☎0577(33)0950。

モグ太郎を使い植え穴を開けていく野下さん（福井県大野市で）